

12. 肝臓機能障害

◆ 1) Child-Pugh分類（肝臓機能障害の重症度）

- ・ 「肝性脳症」「腹水」「血清アルブミン値」「プロトロンビン時間」「血清総ビリルビン値」の5項目
- ◇ 「5項目の合計点数が7点以上(Grade B・C)」は手帳交付の必須条件
 - ・ 1・2級については、「肝性脳症」or「腹水」を含む3項目以上が2点以上であることも要件
- ◇ これらが90日以上180日以内の間隔をおいた検査において連続2回以上続くこと

◆ 2) 臨床症状の項目数

- ・ 補完的な肝機能診断：「血清総ビリルビン値高値」「血中アンモニア濃度高値」「血小板減少」
- ・ 病歴：「原発性肝がん」「特発性細菌性腹膜炎」「胃食道静脈瘤」「B・C型肝炎ウイルスの持続的感染」
- ・ ADL制限：「倦怠感及び易疲労感」「嘔吐・嘔気」「有痛性筋けいれん」
- ◇ 5項目以上 1級
- ◇ 3項目以上 2級・3級（※ ADL制限のみは不可）
- ◇ 1項目以上 4級

◆ 3) その他の基準

- ◇ Child-Pugh分類の検査は、次の2つの状況下で行われていることが条件
 - ・ 180日以上アルコールを摂取していない
アルコール性肝障害に限らず必須条件
患者申告に加えて病状の推移から医師が判断
 - ・ 改善の可能性のある積極的治療を実施
「積極的治療」とは「受診」「服薬」「生活上の管理」といった医師の指示も含むかなり幅広い概念
⇒非代償期であっても実施されてしかるべき内容

◆例外) 肝移植術後

- ◇ 術後の抗免疫療法を継続実施している間は1級

◆ 再認定

- ◇ 初回認定においてChild-Pugh分類の5項目の合計点数が7-9点(Grade B)の場合には、1-5年後に再認定を行う

◆ よくある悩ましいケース

◇ Child-Pugh分類の検査日が90日以上180日以内の間隔でない

⇒90日以上180日以内の検査日のデータを示すよう照会する

悪化で経過している場合は180日を超えていても可

◇ 「改善の可能性のある積極的治療を実施」が「×」になっている

⇒「改善の可能性のある積極的治療」の定義を改めて確認してもらうべく照会
する